埼玉県地球温暖化対策推進条例
に基づく公表

令和７年

サイデン化学株式会社

2024年度サイデン化学 環境パフォーマンス

2025.07.01

＜生産量1トン当たりの環境バランス＞　　ISO14001事務局

INPUT

原料	0.69	t
電気	98.1	kwh
ガス	13.4	㎥
水	1.1	㎥
資材		
サービス		

OUTPUT

			対前年度比(%)
製品	0.94	t	
CO_2	69.4	kg	
原油換算	40.7	L	5.2
廃棄物			
Em + Sol	3.5	kg	
脱水汚泥	2.5	kg	
廃棄費用	282.3	円	
PRTR物質			
大気排出量	0.0216	kg	
下水排出量	0.0010	kg	
ダイオキシン（大気）	7.9	ng-TEQ	

令和 7 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

１　地球温暖化対策事業者の概要

（１）事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	Ⅰ類　A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類　B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類　C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類　任意事業者

（２）地球温暖化対策事業者

事業者名			サイデン化学株式会社	
所在地			東京都中央区日本橋本町3-4-7	
事業者番号			0082	
燃料等使用量の原油換算の合計量（前年度）			1,786	kL／年
大規模小売店舗面積（単独で1,500KL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所）				㎡
産業分類名（中分類）			16 化学工業	
分類番号（中分類）			16	
事業活動の概要	事業内容		接着剤、塗料、粘着剤、各種のコーティング用途に用いられる水系エマルション及び、溶剤系、ゾル系の合成樹脂製品の製造・販売	
	区分		企業	
	前年度	資本金	300	百万円
		従業員数	320	人
商標又は商号（連鎖化事業者のみ）				

（３）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量（kL）
A、Bテナント等事業所			
A	008200	サイデン化学株式会社　浦和工場	349
B、C事業所			
C	008201	サイデン化学株式会社　東京工場	1,437
合　計			1,786

（４）公表方法

○	インターネット利用による公表	アドレス	http://www.saiden-chem.co.jp/
○	事業所での備え置き（複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所1	サイデン化学株式会社　東京工場
		所在地1	さいたま市桜区大字下大久保1280番地1
		閲覧可能時間1	休業日を除く平日 8:30～17:30
		閲覧場所2	
		所在地2	
		閲覧可能時間2	
	その他		

（５）公表の担当部署

	名称（複数可）	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	生産本部　品質保証部	048-852-1711	
2			
3			

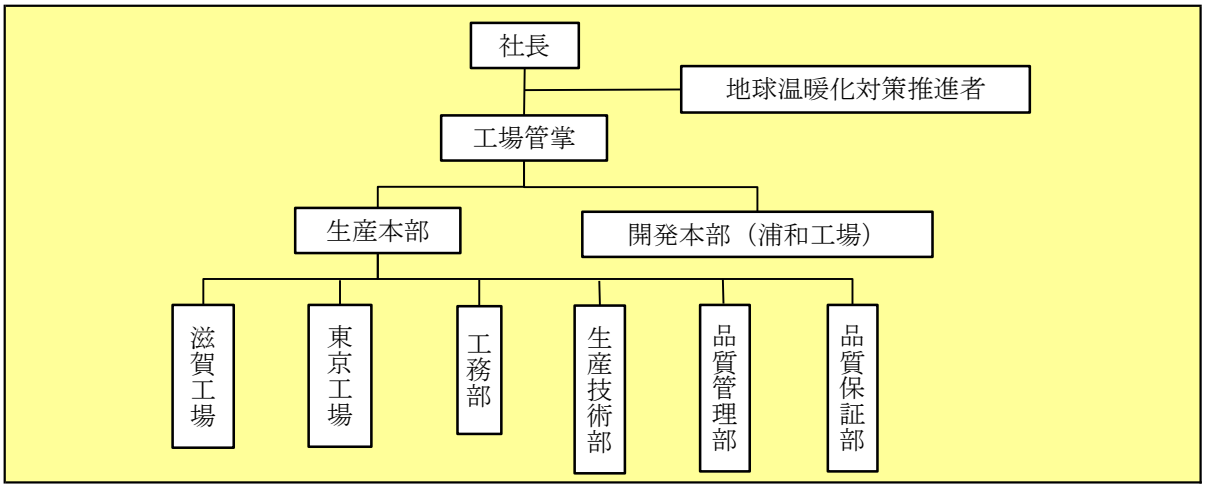
※　事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

２　地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

サイデン化学環境方針
地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、従業員一人一人が「地球に優しい心を持つ」ことを始めとして、当社の主力製品である環境に優しい「合成樹脂エマルション」等を通じて環境問題に取り組み、地球環境の保全に寄与する活動をめざす。また、従業員は家庭に於いても省エネルギー、省資源、リサイクルに努める。そのため、以下の『環境方針』を定める。
１．地球環境の保全と生態系の保護を配慮し、省エネルギー、省資源、リサイクルを念頭に置き、常に改善に努める。
２．環境に負荷の少ない製品開発と、製品の開発から廃棄に至るまでの全段階にわたり、環境負荷の低減に努め、汚染の予防を図る。
３．当社は環境側面にかかわる適用可能な法規制および当社が同意するその他の要求事項を遵守する。

2006年3月20日　社長 籠島嘉隆

３　地球温暖化対策における事業者の推進体制



４　計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO_2換算（ｔ-CO_2）

	令和２年度（2020年度）	令和３年度（2021年度）	令和４年度（2022年度）	令和５年度（2023年度）	令和６年度（2024年度）
エネルギー起源CO_2	3,864	3,851	3,483	3,413	3,484
その他ガス					
温室効果ガスの合計	3,864	3,851	3,483	3,413	3,484

５　各事業所の計画

別紙　事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告　のとおり

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（A、Bテナント等事業所用）　　A事業所（1）

令和 8 年度

事業者番号	0082	事業所番号	008200

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1　事業所の概要

（1）事業所種別

事業所種別	
A	A … 規模判定エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所（合算）

（2）事業所及び事業内容

代表事業所名	サイデン化学株式会社　浦和工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市南区	
	字・地番	辻7-14-2	
当該事業所を含む事業所の名称（※Bテナント等の場合のみ記入）			
産業分類名（中分類）	16 化学工業		
分類番号（中分類）	16		
事業活動の概要	接着剤、塗料、粘着剤、各種のコーティング用途に用いられる水系エマルション及び、溶剤系、ゾル系の合成樹脂製品の開発・試験製造		

2　事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

（1）第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標 目標設定ガス（必須）	基準となる排出量		t-CO2	基準となる原単位	[redacted]
	令和6年度の原単位([redacted])を基準として、前年度比１％ずつ改善する。				
削減目標 その他ガス					

（2）第5計画期間の削減目標

計画期間	12	年度	～	16	年度
削減目標 目標設定ガス（必須）	基準となる排出量		t-CO2	基準となる原単位	
削減目標 その他ガス					

日本産業規格A列4番

事業所リスト

番号	事業所名	所 在 地
1	サイデン化学株式会社　浦和工場	さいたま市南区辻7-14-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※　入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本産業規格A列４番

事業所番号	008200

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（A、Bテナント等事業所用）　　A事業所（2）

3　事業所の温室効果ガス排出量

（1）計画期間のエネルギー使用量の推移

	計画期間				
	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)	令和10年度(2028年度)	令和11年度(2029年度)
原油換算エネルギー使用量(kL)	309				
規模判定エネルギー使用量(kL)					

（2）計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO2換算（t-CO2）

		基準	計画期間				
			令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)	令和10年度(2028年度)	令和11年度(2029年度)
目標設定ガス			624				
	前年度からの増減（%）		―				
	基準となる排出量に対する削減率（%）						
その他ガス	目標設定ガス以外のCO_2						
	メタン						
	一酸化二窒素						
	ハイドロフルオロカーボン						
	パーフルオロカーボン						
	六ふっ化硫黄						
	三ふっ化窒素						
温室効果ガスの合計			624				

（3）計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（目標設定ガス）

CO_2換算（t-CO_2/指標）

		基準	計画期間				
			令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)	令和10年度(2028年度)	令和11年度(2029年度)
目標設定ガス排出量原単位							
	前年度からの増減（%）		―				
	基準となる原単位に対する削減率（%）		4.1				
活動規模の指標		単位					

（４）エネルギー起源CO_2排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和２年度（2020年度）	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数，内容によって大きく左右される。2020年度はCO2排出量が増加しているが、これは開発テーマ数の増加によると考えられる。又、原単位では減少しているが、効率向上というよりは従業員数が増加した影響が大きい。
令和３年度（2021年度）	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数，内容によって大きく左右される。2021年度はCO2排出量が減少しているが、これもバラつきの範疇と考える。
令和４年度（2022年度）	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数，内容によって大きく左右される。2022年度はCO2排出量が増加しているが、これもバラつきの範疇と考える。
令和５年度（2023年度）	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数，内容によって大きく左右される。2023年度はCO2排出量が減少しているが、これもバラつきの範疇と考える。
令和６年度（2024年度）	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数，内容によって大きく左右される。2024年度はCO2排出量が増加しているが、これもバラつきの範疇と考える。

事業所番号	008200

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（B,C事業所用）　　A事業所(4)

4　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

Ｎｏ	対策の区分			対策概要	実施予定年度	実施した年度	推計削減量(t)（1年度当たり）
	区分番号	区分名称					
		大区分	中区分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサーの運転最適化【毎年継続】	R1以前	R1以前	
2	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラーの運転最適化【毎年継続】	R1以前	R1以前	
3	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷水発生器の導入及び運転管理。温度管理及び深夜電力利用の運転を優先。	R1以前	R1以前	
4	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	研究所、事務所のエアコンの温度管理。室温設定の遵守：夏季 28℃　冬季 22℃【毎年継続】	R1以前	R1以前	
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	無人箇所の消灯管理、休憩時間の消灯管理の徹底【毎年継続】	R1以前	R1以前	
6	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	毎週水曜日ノー残業デー【毎年継続】	R1以前	R1以前	
7	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	触媒燃焼式脱臭装置の運転最適化【毎年継続】	R1以前	R1以前	
8	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	研究室エアコンの更新	R2	R2	
9	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	老朽化した試験機器の更新	R2	R2	
10	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	老朽化した試験機器の更新	R3	R3	
11							
12							
13							
14							
15							

事業所番号	008200

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（Ａ、Ｂテナント等事業所用）　A事業所(5)

５　事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

Ａ事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

１）ISO１４００１の取得
　弊社は平成１８年１０月２０日にISO１４００１を取得し、全組織で環境問題に取り組み地球温暖化防止対策、省エネルギー対策、廃棄物の削減などに取り組んでいる。

２）循環冷却水（工程水）
・チラーユニットの温度設定遵守（23℃運転、20℃停止により電気使用量削減）
・深夜電力利用の運転を優先。

３）各動力機器の運転最適化（動力使用時間の削減）
・むだな運転を止め、節電に努める。

４）自然エネルギーの利用
・平成２１年に太陽光発電設備（１６kWh)を導入。

５）節電の徹底
・環境巡視：休憩中等の消灯。
・エアコン室温設定の遵守　：　夏季 28℃　冬季 22℃

６）毎週水曜日ノー残業デー

１）～６）の取り組みにより徹底的に無駄を排除し、さらに全社を挙げて地球温暖化防止に取り組む。

サイデン化学浦和工場は研究所として機能しており、実験機器を多数使用している。
今後も環境配慮型製品開発のために新規の機器を導入することになるが、今まで以上に実験機器の効率的な使用と、さらに無駄の排除に取り組む必要がある。

令和 7 年度

事業者番号	0082	事業所番号	008201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1　事業所の概要

（1）事業所種別

事業所種別	
C	C　平成20年度以降の3か年度（年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度）連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所（他の事業所の一部（区分所有部分、テナント部分等）である事業所は除く）

（2）事業所及び事業内容

事業所名		サイデン化学株式会社　東京工場
事業所所在地	市区町村	さいたま市桜区
	字・地番	大字下大久保１２８０番地１
産業分類名（中分類）		16 化学工業
分類番号（中分類）		16
事業活動の概要	事業内容	接着剤、塗料、粘着剤、各種のコーティング用途に用いられる水系エマルション及び、溶剤系、ゾル系の合成樹脂製品の製造、従業員数：113人

2　事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

（1）第３計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標 エネルギー起源CO_2（必須）	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を15%以上とする。（必要に応じて排出量取引を活用する）				
削減目標 その他ガス					

エネルギー起源CO_2の削減目標の概要					
排出可能上限量（計画期間合計）	20,259	t-CO_2			
削減目標量（計画期間合計）	3,576	t-CO_2	事業所区分	第2区分	

（2）第４計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標 エネルギー起源CO_2（必須）	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を48%以上とする。（必要に応じて排出量取引を活用する）				
削減目標 その他ガス					

事業所番号	008201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（B,C事業所用）　　C事業所（２）

３－１　事業所の温室効果ガス排出量

（１）計画期間のエネルギー使用量の推移

	計画期間				
	令和７年度（2025年度）	令和８年度（2026年度）	令和９年度（2027年度）	令和10年度（2028年度）	令和11年度（2029年度）
原油換算エネルギー使用量(kL)	1,324				
規模判定エネルギー使用量(kL)	1,324				

（２）計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO_2換算（t-CO_2）

		計画期間				
		令和７年度（2025年度）	令和８年度（2026年度）	令和９年度（2027年度）	令和10年度（2028年度）	令和11年度（2029年度）
目標設定ガス		2,659				
	前年度からの増減（％）	―				
その他ガス	目標設定ガス以外のCO_2	34				
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化硫黄					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		2,693				

（３）計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（目標設定ガス）

CO_2換算（t-CO_2/指標）

		計画期間				
		令和７年度（2025年度）	令和８年度（2026年度）	令和９年度（2027年度）	令和10年度（2028年度）	令和11年度（2029年度）
目標設定ガス排出量原単位						
	前年度からの増減（％）	―				
活動規模の指標	単位					

（４）エネルギー起源CO_2排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和２年度（2020年度）	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	CO2排出量は減少したが、生産量原単位では増加した。これはコロナ禍の影響により生産量が減少したため、生産効率が低下したものと考えられる。					
令和３年度（2021年度）	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	昨年に比べ生産量は増加したがCO2排出量は同等であった。エネルギー使用量の異なる製品を多種製造しているため誤差の範囲とも考えられるが、循環冷却水用濾過設備設置の効果の可能性も有る。					
令和４年度（2022年度）	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	生産量の減少に伴いCO2排出量も減少した。但し生産量原単位の増加がみられなかった。生産設備以外にも工場を稼働させるための生産量に依存しない一定のエネルギー消費があるため、生産効率の悪い製品比率の減少により、生産設備のエネルギー効率が改善し、原単位の増加が起きなかったものと考えられる。					
令和５年度（2023年度）	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	CO2排出量は減少したが、生産量原単位では2023年度から増加傾向にある。これは生産量の減少により、生産効率が低下したものと考えられる。					
令和６年度（2024年度）	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	CO2排出量は昨年と同等レベルであるが、生産量原単位では2023年度から増加傾向にある。これは生産量の減量により生産効率が低下したためと考えられる。					

事業所番号	008201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（B,C事業所用）　　C事業所(4)

３－２　温室効果ガス削減目標に係る状況

（１）　基準排出量

基準排出量	4,767	t-CO_2/年
基準排出量の検証	実施済	

（２）　基準排出量の変更

	変更年度	変更量（t-CO_2/年）
1		
2		
3		
4		
5		

（３）目標削減率

目標削減率の区分	第２区分

（４）削減計画期間

2	年度から	6	年度まで

（５）年度ごとの状況

（排出量等の単位：t-CO_2）

		令和２年度(2020年度)	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６年度(2024年度)	削減期間合計
基準排出量等	基準排出量(A)	4,767	4,767	4,767	4,767	4,767	23,835
	目標削減率の緩和措置	中小企業等	中小企業等	中小企業等	中小企業等	中小企業等	
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	
	排出上限量（C＝Σ A-D）						20,259
	排出削減目標量(D＝Σ(A×B))						3,576
実績	エネルギー起源CO_2排出量(E)	3,211	3,223	2,830	2,771	2,804	14,839
	削減率（F＝（A－E）/A）	32.64%	32.39%	40.63%	41.87%	41.18%	―
	排出削減量（G＝A－E）	1,556	1,544	1,937	1,996	1,963	8,996
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	未実施	未実施	

事業所番号	008201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（B,C事業所用）　　C事業所(5)

4　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施予定年度	実施した年度	推計削減量(t)（1年度当たり）
	区分番号	区分名称					
		大区分	中区分				
1	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷水発生器の運転管理。温度管理及び深夜電力利用の運転を優先。冷水需要量に応じ、昼間の運転を台数制御。【毎年継続】	R1以前	R1以前	
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	事務等エアコンの温度管理。温度設定の遵守　：夏季 28℃　冬季 22℃【毎年継続】	R1以前	R1以前	
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	無人箇所の消灯管理、休憩時間の消灯管理の徹底。【毎年継続】	R1以前	R1以前	
4	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	コンプレッサーの排熱を利用して、ボイラー給水の余熱に利用。【毎年継続】	R1以前	R1以前	
5	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	純水装置の逆浸透膜フィルターの交換により、今まで使用していたポンプ汲み上げ井戸水の使用水量を３割削減。	R1以前	R1以前	
6	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	製造設備攪拌機用モーターのインバーター化。	R1以前	R1以前	
7	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	循環冷却水用濾過設備導入	R3	R3	
8	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	工場単位で電力計を設置	R5	R5	
9	170300	負荷平準化	17_新エネルギー	太陽光パネルを設置	R7以降		
10							
11							
12							
13							
14							
15							

５　事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

１)ISO１４００１の取得
　弊社は平成１８年１０月２０日にISO１４００１を取得し、全組織で環境問題に取り組み地球温暖化防止対策、省エネルギー対策、廃棄物の削減などに取り組んでいる。

２）循環冷却水（工程水）
・チラーユニットの温度設定遵守（13℃→15℃により電気使用量削減）
・深夜電力利用の運転を優先。冷水需要量に応じ、夏場に昼間の運転台数を制御。
温度状況により10/20台と半分の台数で対応。
なお平成２８年度に最新のチラーユニットに入れ替えた。

３）反応及び配合時間の削減（動力使用時間の削減）
・むだな撹拌運転を止め、節電に努める。
・スケールアップ／ダウンにより適正な生産量で、生産効率アップを図る。

４）節電の徹底
・環境巡視：休憩中等の消灯チェックを実施。（1回／月）
・事務棟エアコン温度設定の遵守　：　夏季 28℃　冬季 22℃

１）～４）の取り組みにより徹底的に無駄を排除し、さらに全社を挙げて地球温暖化防止に取り組む。

サイデン化学東京工場はメイン生産工場であり全社の約半分強のC0２排出量がある。省エネタイプの機器導入と更新を今後も積極的に行う。

さいたま市生活環境の保全に関する条例
（さいたま市環境負荷低減計画制度）
に基づく公表

令和７年

サイデン化学株式会社

令和 7 年度

事業所番号	1015

さいたま市　環境負荷低減計画

１　事業所の概要

（１）事業所種別

事業所種別	
1	1　年間原油換算使用量1,500kℓ以上の事業所 2　大規模小売店舗のうち、店舗面積が5,000㎡以上である事業所

（２）事業所及び事業内容

事業所名	サイデン化学株式会社　東京工場		
所在地	埼玉県さいたま市桜区大字下大久保字拾石田1280-1		
エネルギー原油換算使用量（kℓ）	2024(令和6)年度	2023(令和5)年度	2022(令和4)年度
	1,275	1,420	1,451
産業分類名（中分類）	化学工業		
分類番号（中分類）	16		
事業活動の概要 （従業員数、敷地面積、延べ床面積等）	接着剤、塗料、粘着剤、各種のコーティング用途に用いられる水系エマルション及び、溶剤系、ゾル系の合成樹脂製品の製造 従業員数　：103人 敷地面積　：30,514㎡ 延べ床面積：12,047.14㎡		

２　事業所の環境方針

サイデン化学環境方針

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、従業員一人一人が「地球に優しい心を持つ」ことを始めとして、当社の主力製品である環境に優しい「合成樹脂エマルション」等を通じて環境問題に取り組み、地球環境の保全に寄与する活動をめざす。また、従業員は家庭に於いても省エネルギー、省資源、リサイクルに努める。そのため、以下の『環境方針』を定める。

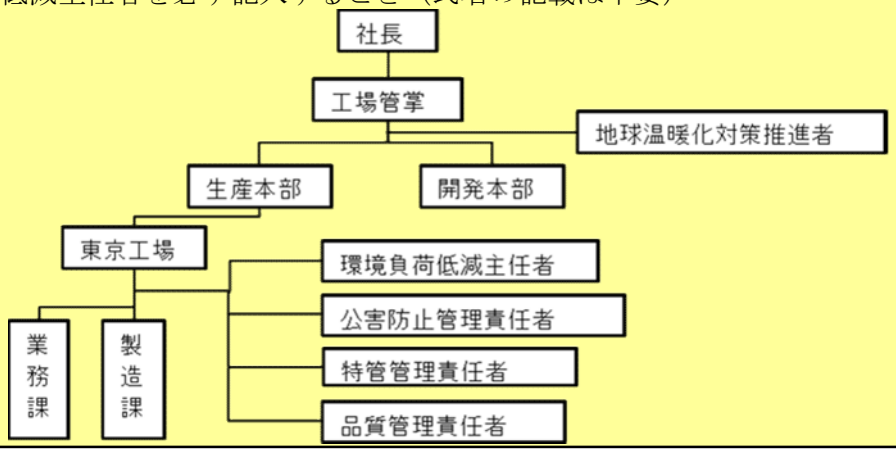
１．地球環境の保全と生態系の保護を配慮し、省エネルギー、省資源、リサイクルを念頭に置き、常に改善に努める。
２．環境に負荷の少ない製品開発と、製品の開発から廃棄に至るまでの全段階にわたり、環境負荷の低減に努め、汚染の予防を図る。
３．当社は環境側面にかかわる適用可能な法規制および当社が同意するその他の要求事項を遵守する。

2006年3月20日　社長 籠島嘉隆

環境負荷低減計画様式③－２

3　事業所の地球温暖化対策における推進体制

※環境負荷低減主任者を必ず記入すること（氏名の記載は不要）



4　事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

（１）　削減目標

計　画　期　間		2026(令和8)年度　～　2028(令和10)年度			
基　準　年　度 (2013年度から前々年度の間で任意の年度を設定)		2018年度			
削減目標	目標ベース （必須）	温室効果ガス排出量（原則こちら）			◉
		排出量原単位			○
		活動規模の指標	指標		
			基準年度の値		
	温室効果ガス合計 （必須）	基準排出量： 2028年度までに	3413 15	t-CO_2として、 %を削減する。	
		基準排出量原単位： 2028年度までに		t-CO_2として、 %を削減する。	
	エネルギー起源CO_2 （必須）	基準排出量： 2028年度までに	3,413 15	t-CO_2/指標として、 %を削減する。	
		基準排出量原単位： 2028年度までに		t-CO_2として、 %を削減する。	
	非エネルギー起源CO_2 (該当する排出がある場合)	基準排出量： 2028年度までに		t-CO_2として、 %を削減する。	
		基準排出量原単位： 2028年度までに		t-CO_2として、 %を削減する。	
	その他温室効果ガス (年間3,000t-CO_2以上排出している場合)	種類：			
		基準排出量： 2028年度までに		t-CO_2として、 %を削減する。	
		基準排出量原単位： 2028年度までに		t-CO_2として、 %を削減する。	

環境負荷低減計画様式③－３

5　事業所の温室効果ガス排出量

（1）計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO_2換算（t-CO_2）

			基準年度	計画提出前年度	計画期間		
			2018年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
CO_2	エネルギー起源CO_2	目標			3,015	2,958	2,901
		実績		2,496			
	非エネルギー起源CO_2	目標			0	0	0
		実績		0			
	CO_2の合計	目標			3,015	2,958	2,901
		実績		2,496			
その他温室効果ガス	メタン	目標			0	0	0
		実績		0			
	一酸化二窒素	目標			0	0	0
		実績		0			
	ハイドロフルオロカーボン	目標			0	0	0
		実績		0			
	パーフルオロカーボン	目標			0	0	0
		実績		0			
	六フッ化硫黄	目標			0	0	0
		実績		0			
	三フッ化窒素	目標			0	0	0
		実績		0			
	その他温室効果ガス合計	目標			0	0	0
		実績		0			
温室効果ガスの合計		目標			3,015	2,958	2,901
		実績		2,496			
基準年度：2018年度比　削減率		目標			11.7%	13.3%	15.0%
		実績		26.9%			

（2）計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況

CO_2換算（t-CO_2/指標）

エネルギー起源CO_2					計画提出前年度	計画期間		
					2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
エネルギー起源CO_2排出量原単位	単位		目標					
			実績					
温室効果ガスの合計排出量原単位			目標					
			実績					
基準年度：2018年度比　削減率			目標					
			実績					
活動規模の指標	◉	生産量	○○	あたり				
	○	出荷額	○○	あたり				
	○	従業員数	○○	あたり				
	○	床面積	○○	あたり				
	○	（　　）（※自由記載）	○○	あたり				

※○○には活動規模の指標となる単語を記入してください。
例：　m、t、百万円　など

6　環境負荷の現状

（1）環境保全の取組のチェック（『取組チェック』）の結果

項目	先進的な取組	重点的な取組	全体
達成率（%）	0.0	33.3	16.7

（2）環境への負荷のチェック（『負荷チェック』）の結果

●二酸化炭素排出量
様式③－3 「5　事業所の温室効果ガス排出量」のとおり

7　具体的な取組の内容

（1）必須項目
二酸化炭素排出量の低減のための取組
1）循環冷却水（工程水）
チラーユニットの温度設定遵守（15℃により電気使用量削減）/深夜電力利用の運転を優先。冷水需要量に応じ、昼間の運転を台数制御。
2）反応及び配合時間の削減（動力使用時間の削減）
無駄な運転を止め、節電に努める。/スケールアップにより生産回数を減らし、生産効率アップを図る。
3）節電の徹底
触媒燃焼脱臭装置の運転最適化を実施。/照明のLED化/環境巡視：休息中等の消灯チェックを実施。

基準年度から二酸化炭素排出量が増減した理由
設備の更新，生産量の減少により二酸化炭素排出排出量が減少したと考えられる。排出係数変化の影響も考えられる。

8　公表の方法

・場所	サイデン化学（株）東京工場受付：さいたま市桜区大字下大久保1280-1 ホームページ：http://www.saiden-chem.co.jp/
・日時	8：30～17：30（休日及び休業日を除く）
・連絡先	サイデン化学（株）品質保証部　TEL. 048-852-1711

9　温室効果ガス排出量の削減率の公表

公表の可否（選択式）	公表可
公表不可の理由	

様式④　取組チェックシート

【先進的な取組】

×	ZEBの導入	事業所をZEB化（『ZEB』、Nearly ZEB、ZEB Ready、ZEB Oriented）
△	再エネ設備の導入	事業所に再エネ設備を導入
×	再エネ電力・環境価値の調達	事務所に再エネ電力又は環境価値を調達
×	次世代自動車の導入	次世代自動車（EV、FCV、PHEV、HV等）の導入
×	BEMS・FEMS等の導入	エネルギー管理のための設備（BEMS、FEMS等）の導入
×	気候変動イニシアティブへの参加	気候変動イニシアティブ（CDP、再エネ100宣言ReAction、SBT等）への参加

チェック欄数：6　　達成率（%）
0

【重点的な取組】

×	2050年目標の設定	2050年までにカーボンニュートラルを目指す目標の設定
×	SC全体でのCO_2削減	サプライチェーン（SC）全体でのCO_2削減に向けた体制の構築の有無
×	省エネ診断の受診	過去５年間で省エネ診断を受診し、設備の適正使用・計画的な更新の実施
○	従業員への環境教育	事業所内の従業員への環境教育の実施
×	自動車の適正使用	エコドライブの実践、適正な走行ルート、カーシェア利用などの実施
○	空調機の適正使用	室内温度の適正管理、定期的なフィルター清掃の実施

チェック欄数：6　　達成率（%）
33

※事業所に計画がある場合には、根拠資料の提出を求めることがあります。